

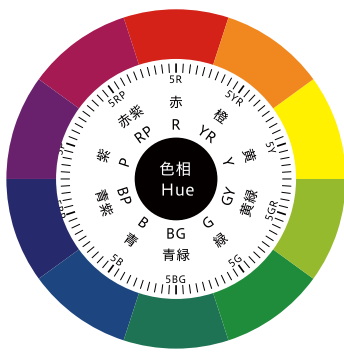
参考資料：広告景観を考えるためのデザインの基礎知識

■屋外広告物の色彩について

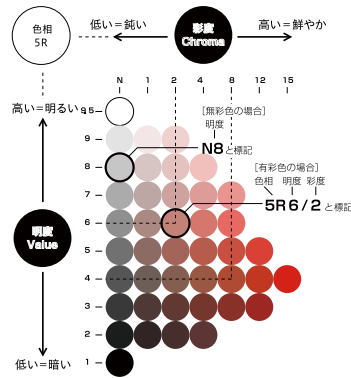
屋外広告物における色彩は、商業地域の賑わい創出などの目的から、できるだけ目立つように華やかな色彩が用いられる傾向があり景観に大きな影響を与えています。色彩は景観との調和や安全性の確保のために重要な要素です。色彩の属性とその性質を理解しておきましょう。

色彩の基礎知識（マンセル値）

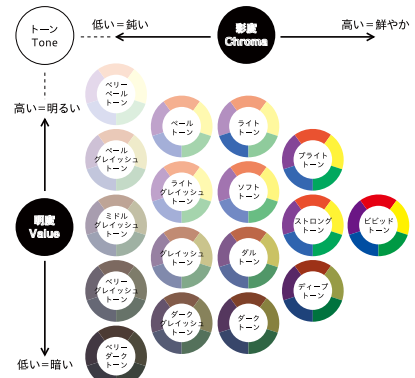
色は、色相・明度・彩度の3つの属性で表されます。これを組み合わせて色を表す仕組みが、マンセル表色系です。色相は色味、明度は明るさ、彩度は色の鮮やかさを表します。マンセル記号では、色相・明度・彩度の表記方法で、全ての色を数値記号で示します。明度、彩度が近い色同士は、色相が異なっても調和のある色の組み合わせになり、これをトーンと呼びます。



マンセルの色相環



同じ色相の明度と彩度

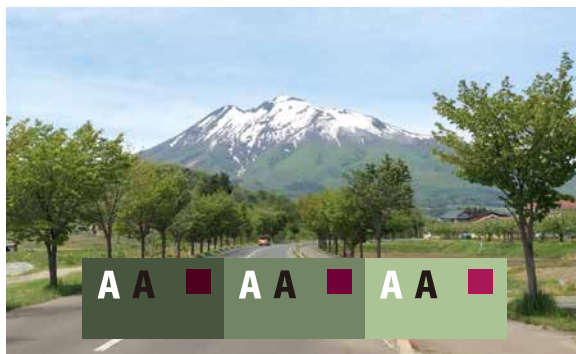


色彩計画におけるトーン

色彩選定の例

屋外広告物が設置される場所には、必ず背景があり背景にも様々な色があります。屋外広告物の色を決める場合には背景との関係性を考慮し、広告物を背景と調和させる必要があります。

自然景観型



背景色は、路面のグレー、木々の緑、空の青などが主となります。広告物の板面にはそれらに調和する色（近似色または補色）の彩度を抑えた色を用い、明度でコントロールすることで背景と調和しやすくなります。

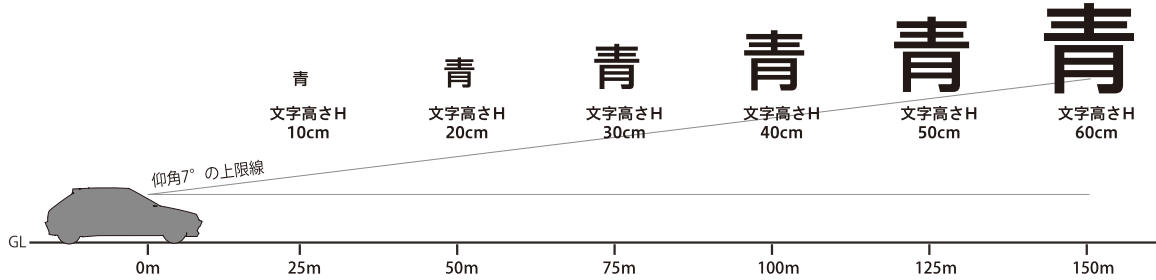
市街地景観型



背景色は路面のグレー、建物の壁面色（主にウォーム系で低彩度の色）が主となります。広告物の色は建物や街並みと調和する色を選定し、近隣の広告物との全体調和を図ることで地域全体の広告効果を高めます。彩度の高い色を用いる場合は面積を小さく使用します。

■可読距離と文字サイズについて

屋外広告物に用いる文字の大きさを決める目安としては【文字の高さ×250＝可読距離】があります。例えば、10mくらい離れて見る置き看板では文字の高さは4cmあれば良いことになります（漢字9画の場合）。アルファベットや数字はその50%＝2cmあれば十分です。



文字の可読距離



【文字の高さH×250＝可読距離】

H
視認距離50mの場合、
文字高さは20cm

道路標識の文字寸法

自動車速度／時速	日本語文字高
30km以下	10cm
40～60km以上	20cm
70km以上	30cm
高速道路	50cm

※道路標識設置基準より

■街並みを考えるための視点

屋外広告物の設置位置、大きさ、かたちは、個々の広告物だけではなく、街並み全体で考えることが大切です。

地域、商店会等でルールを決めるなど、秩序ある広告物の計画を行うことで、魅力的な街並みが形成され、好感度の向上、集客力の向上にもつながります。

